

事例4 クラスの友達と一緒にトラブルを乗り越えようとする事例
～読み聞かせを通して～

(方法④)

<クラスの実態>

- ・年長5歳児は8名のクラスである。3歳児の時からほとんど変わらない仲間関係で、一緒に過ごしている。
- ・一人一人が自分の思いや考えを伝えることができ、何でも話せる雰囲気がある。
- ・友達に対しては、自分の思いを伝えるが、相手の思いを受け入れることができにくかったり、思いが食い違ったりしてトラブルになることもある。

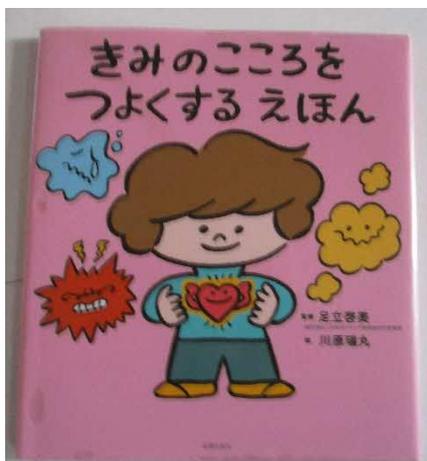
<保育者の願い>

- ・自分の思いを何でも話せるクラスの雰囲気を大切にして、日々生活をしている。自分の思いを伝え、相手の思いに気付いたり、受け入れたりして生活や遊びを進められるようになってほしい。その積み重ねで、自分の思いを受け入れてもらえる喜びを感じたり、友達の思いや考えに触れることで、“友達っていいな”“友達と一緒にいると楽しい”と友達の良さに気付いたりしてほしい。

○A児とB児は、ごっこ遊びが好きでイメージを共有しながら遊びを楽しんでいる。特にA児は、B児と遊びたい思いが強く、無理に誘うこともある。また、遊びの中でも、思いの相違から言い合いになり、トラブルになることもある。

B児については、A児と遊ぶことを約束していても、その時になると約束したことを忘れていて他の友達と遊び始めることがあるため、A児が嫌な思いをする時がある。

保育者は、トラブルを受け止めた上で、遊びの時間をトラブルだけで終わってしまうことをどのように思うのかを2人に聞き、どうすればよいのかを考えられるようにした。また、他の友達の考えも聞くとよいのではと思い、お話タイムで取り上げ、みんなで解決する機会ももつようにした。友達の思いを聞くことができたことは、A児、B児にとってよかったと思う。さらに、自分たちの気持ちについて知るきっかけになればと思い、「きみのところをつよくするえほん」の読み聞かせを行った。



イライラする気持ちを落ち着かせる方法が載っている

監修 足立啓美
絵 川原瑞丸
主婦の友社

(読み聞かせの後の感想)

B児：「いろいろなことがわかってよかった。けんかしてもすぐに仲直りする」

A児：「友達に手を出しそうになったらカメのようにする。弱い心より、強い心がいいな」

(数日後遊びの場面より)

B児と意見が対立し、トラブルになりそうになる。

A児：「手が出そうになったけど、かめのこうらみたいに力を入れてとめたよ」

T：「すごいね。自分で止められてえらかったね」

* A児の行動を認め、ほめる。B児にもA児の行動を伝える。

しばらくして2人は、互いに折り合いをつけ謝っていた。

読み聞かせによって気持ちの処理の仕方を知るきっかけになり、実践できたことは、A児の心に響いたからだと思う。

【考察】

- A児は、自分の気持ちをコントロールすることができにくく、感情を強く出すあまり、口調がきつくなったり、手が出てしまったりしてトラブルになる。その都度A児とは、話をしてきたが、強い口調になることは、友達に話を聞いてほしい思いが強く、何度も話をしているうちに強い口調になっていることがわかり、一緒に遊んでいるB児にもA児のことを理解するきっかけになった。友達とのかかわりについては、互いに思い伝え合う中で、相手の気持ちに気づき、受け入れられるようになっていく。まずは、「友達っていいな」と感じられる経験を積み重ねていくことが大切だと思う。クラスの雰囲気として友達同士でなんでも話せる雰囲気はあるので、互いに思いを出し合い、トラブルなども状況によってはみんなで解決していきたいと考えている。今回は、絵本の読み聞かせを行い、心情面から働きかけた。自分の気持ちをコントロールしていくきっかけになればと思う。今後も、いろいろな場面を通して、子どもたちの心情面を育てていきたい。